

アメリカ合衆国政府への決議(案)

世界中の女性が連帯して「くらし、権利、平和」のために立ち上がる国際女性デーの3月8日、私たちは、「つながろう女性たち ジェンダー平等へ 秘密保護法いまずぐ廃止！戦争する国なんて許さない！輝かせよう日本国憲法！」のスローガンをかけ、東京・みらい座いけぶくろで開かれた2014年国際女性デー中央大会に集いました。

日本国憲法はその前文で日本国民は恒久の平和を念願し、平和的生存権を有すことを宣言し、憲法9条では武力による威嚇、武力行使を放棄し、交戦権を認めず、戦力不保持を定めています。

しかし、安倍政権は、過去の侵略戦争への無反省な言動を繰り返し、近隣諸国との緊張を高め、戦後世界の出発点をくつがえそうとしています。憲法をないがしろに、秘密保護法制定、集团的自衛権行使容認、武器輸出を行おうとしていることは許されません。私たちはこうした日本政府に対し、平和を脅かす憲法改悪に反対し、憲法を遵守すべきであるとの、要請も行っているところです。

「核兵器のない世界」を願う核兵器廃絶の運動が国際世論を動かし、2015年NPT再検討会議を控えて核兵器禁止条約の交渉開始を求める流れが国際政治の舞台でも急速に発展しています。しかし、核保有国が「核抑止力」論や「核拡大抑止」論に固執し核禁止条約の交渉に反対、棄権の態度をとり続けていることは大変遺憾です。こうしたなかで、世界最大の経済力を持ち、最大の核兵器保有国、軍事大国であるアメリカ合衆国が果たす役割は大きいものがあります。

しかし、オバマ大統領は、「核抑止力」の立場を明言し、日本への核の持ち込み、日米軍事同盟強化などの圧力を強めています。さらに、日本国民の生命、財産、権利など国民主権を侵害しかねないTPP（環太平洋経済連携協定）交渉で日本に一方的譲歩を強要していることに私たちは憤りを感じています。

アメリカ合衆国が世界一危険な普天間基地にオスプレイ配備を強行し、訓練空域を日本全国に拡大していることや横須賀の原子力空母の母港化などは、日本と世界の安全にとってまさに脅威となっています。沖縄では「米軍普天間基地の撤去」「辺野古新基地建設反対」のゆるがぬ県民の意思を示しています。また、言語学者ノーム・チョムスキー、映画監督のオリバー・ストーン、マイケル・ムーア氏らが呼びかけた「辺野古新基地反対・普天間基地撤去」を求める国際署名も広がっています。世界の流れは戦争放棄、核兵器廃絶と憲法9条が希求する方向へと動いています。

国際女性デーに集った女性たちは、日本国憲法を堅持し、憲法前文に謳われた「全世界がひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利」実現をめざすことを確認し、アメリカ合衆国政府に以下の項目の実現を要請します。

記

- 1、核兵器禁止条約の締結へイニシアチブを発揮し、最大の核保有国として責任を果たすこと。未臨界核実験をはじめすべての核実験を中止すること。日米核密約を廃棄すること。日本の非核三原則を尊重し、原子力艦船の日本寄港・配備を中止すること。
- 1、オスプレイ配備・訓練をやめ、普天間基地は無条件撤去し、辺野古への新基地建設など米軍基地の再編・強化計画をやめること。「思いやり」予算の強要をやめること。
- 1、米兵犯罪を根絶し、第一次裁判権放棄の密約を廃棄し、日米地位協定をただちに見直すこと。
- 1、在日米軍基地を縮小・撤去し、アジアと世界の平和を脅かす日米安保条約を解消すること。
- 1、関税撤廃とアメリカ型ルールを押し付けるTPP（環太平洋経済連携協定）は中止すること。
- 1、日米原子力協定をたてに、日本政府に従来どおりの原発政策をとるよう強要しないこと。

2014年3月8日
2014年国際女性デー中央大会